

入 試 年度	2026 年度	入試時期	Ⅱ期入学試験	実施日	2026 年 2 月 24 日
課程	博士前期課程	研究科	文学研究科	専攻・ コース	臨床人間学専攻臨 床心理学専修
入 試 方式	一般入学試験		試験科目	専門科目	
「解答」または「解答例」及び「出題の意図」					

M 臨 29-1 【Ⅰ】

【解答例】

A さんに対して、医師と連携しながら、まずは信頼関係の構築を行う。傾聴に努め、共に考え寄り添う姿勢を提供する。また、「代弁者」として、ご家族や職場・コミュニティに対し、A さんの現状に対する理解を深める働きかけ、環境改善や関係調整を行う。本事例にもあるように、ヤングケアラーとしての問題が解決されないまま、その後の人生においても、様々な心理的・社会的な問題として影響が維持される可能性が多いため、ヤング（18 歳未満）のうちの早期発見・早期対応、成人期における二次対策は臨床上大切なポイントである。

ヤングケアラー当事者への対応に併行して、ご家族に対する必要なサポートを行うことは、家族の抱える問題を整理し、当事者にかかる負担を軽減することに繋がる。また、福祉・教育・医療などの関係諸機関が連携して情報共有を行い、当事者およびご家族が所属する学校や職場・コミュニティに対して啓蒙活動を実施し、相談窓口などの設置や学習支援やメンタルヘルス支援などのプログラムを用意することは、ヤングケアラー問題に関するサポート体制を強化し、今後の類似ケースが発生する予防や早期発見・対応に繋がる。

【出題の意図】

令和 6 年に法的に定義化され、相談現場において心理的問題の中核的背景の一つとして注目が増えている「ヤングケアラー」に関する受験生の知識を確認するため。

M 臨 29-2 【Ⅱ】

【解答例（採点時の観点）】

正の強化の例：子どもがお手伝いをしてお小遣いをもらおうと、お手伝いするようになるのは、お小遣いという好子の出現（正）により、お手伝いという行動の生起頻度が上がる（強化）という現象である。

正の弱化的例：いたずらをした子どもが体罰を受けると、いたずら行動が減るのは、体罰という嫌子の出現（正）により、いたずら行動の頻度が下がる（弱化的）という現象である。

負の強化の例：病院に行くと痛みが消えて、病院に行く行動が増えるというのは、痛みという嫌子が消える（負）ことで、病院に行くという行動の生起頻度が上がる（強化）という現象である。

負の弱化的例：乱暴な行動を取った子どもを食事場面から一時的に隔離することで、乱暴な行動が減るというのは、食事場面という好子が消える（負）ことで、乱暴な行動の生起頻度が下がる（弱化的）という現象である。

【出題の意図】

行動療法の基本である行動理論の基礎的な理解について確認することを目的とした。

M 臨 29-2 【Ⅲ】

【解答例】

（１）ピア・サポート

ピアサポートは学校における予防的なアプローチとして用いられる方法の一つである。いじめ予防や不登校予防において効果がある。いくつかの形態があり、一つは上級生がピアサポーター（相談役の生徒）となり下級生や新入生の相談にのる活動とであり、大学や高校でよく行われる。もう一つの方法は、上級生（例：小学校 5 年生）が下級生（例：小学校 2 年生）の「お世話活動」をおこなう方法で小学校でよく行われている。下級生は依存心を満たすことができメンタルヘルスが改善し、上級生は頼られることで成長が促進されるとされる。

（２）確証バイアス

ある考えや仮説を評価・検証しようとする際に多くの情報、選択肢のなかからその仮説に合致する証拠を選択的に認知したり、判断において重視したりする傾向。情報が与えられていない場合、仮説を肯定する証拠を選択的に収集しようとする。また、自分の既存の信念や仮説を支持する情報を優先的に探し、受け入れ、反証となる情報を無視・軽視する認知的傾向のこと。具体例としては、特定の政治的主張を持つ人が、自分の意見を支持するニュースだけを読む行動が生じる場合、確証バイアスが生じていると考える。

（３）発達の最近接領域（Vygotsky, L.S.）

ヴィゴツキーが提唱した、個人の現存する発達水準と、他者の援助によって到達可能な潜在的水準の境界領域を意味する。発達心理学では、社会的な相互作用が個人の精神機能へ内面化される過程として重視される。臨床的には、対象者のレディネスを見極め、適切な足場かけを行うための指標となる。教育や支援では、この領域に働きかけることで発達を前方から牽引することを試みる必要がある。

(4) マーガレット・S・マラー

オーストリア生まれの精神科医，精神分析家，児童心理学者。アメリカ亡命後，乳幼児が母親との一体感から分離—個体化して対象恒常性を獲得するまでの過程を説明する「分離個体化」理論を打ち立てた。「正常な自閉期」「正常な共生期」を経た後で生じる「分離・個体期（分化期・練習期・再接近期・再個体期の4期）」の発達理論は，精神発達における母子関係の重要性を指摘し，人見知りや愛着理論などの形成に多大な影響を与えた。

(5) パラフィリア症群 (DSM-5-TR/ICD-11)

非定型的な性的興奮のパターンが持続的かつ強烈であることを特徴とする疾患であり，性的な思考，空想，衝動，行動によって示される。ICD-11 でパラフィリア症に含まれるのは露出症，窺視症，小児性愛症，強制的サディズム症，窃触症，同意しない者を対象とする他のパラフィリア症，単独で行うまたは同意する者を対象とするパラフィリア症である。DSM-5-TR では，さらにフェティシズムと性的マゾヒズムも診断名として設定されている。

(6) 効果量

統計的仮説検定ではサンプル数が大きくなるほど有意になりやすい等の問題があるため，サンプル数に依存しない指標をもとに研究結果の実質的な意味を検討することが求められるようになった。その代表的な指標が効果量であり，一般的には，2群の平均値差を表す d 族と2変数間の関係の大きさを表す r 族の効果量とに分けられる。

(7) 心的外傷後成長 (Posttraumatic Growth)

心的外傷後成長 (PTG: Posttraumatic Growth) とは，トラウマ体験そのものではなく，その後の心理的葛藤や意味づけの過程を通して生じる肯定的な変化を指す。具体的には，他者との関係の深化，新たな可能性の発見，自己の強さの認識，人生観の変化，実存的理解の深まりなどが含まれる。苦痛の軽減とは別に成立し，PTSD 症状と共存することもあるため，支援では成長を強制せず自然な回復過程を尊重することが重要である。

(8) 投映法

特定の反応を引き出したり強いたりすることのない状況下，つまり比較的構造をもたないあいまいな，あるいは漠然とした刺激に対して反応する際の行動を観察して，その人に特徴的な行動様相（態度，モチベーション，力動的特性など）をみつけようとする手続きを指す。代表的な手続きとして，ロールシャッハ・テスト，主題統覚検査 (TAT)，文章完成法 (SCT)，描画法検査などがあげられる。

【出題の意図】

臨床心理学および心理学全般に関する基礎知識の習得度を評価するために、計8問の小問を分野・領域が偏らぬように専修内で協議して設置した。

合否判定の方法及び基準

入学試験は文学研究科のアドミッションポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。

合否判定については、本研究科のアドミッションポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。